

あぜがみ順平の考える
“スマート田園都市・越谷”構想「暮らす」まちから
「人生を選ぶ」まちへ「育む」
「支えあう」

こしがや未来通信 2.0

越谷の未来を「育む」

マンパワーのある越谷において、持続的に豊かな地域形成を実現するためには、人への継続的な投資が必須です。子どもから大人まで多様な学びの機会をつくり、越谷の未来を育む教育を進めます。

地域とともに育ち 多様な学びを支える教育を進めます

市立小中学校では、地域の歴史や文化、体験学習を積極的に取り入れた教育プランを教育委員会と協力して導入し、越谷市への愛着を育みます。

あわせて、不登校支援や特別支援学級の拡充、障がいの特性に応じた支援体制の整備にも取り組み、一人ひとりの学びを丁寧に支え、自分らしく学べる環境を整えます。その上で、海外事例も参考にしながら、インクルーシブ教育のモデル校を設け、多様な背景のある子どもたちが共に学べる環境づくりを進めます。

子どもたちの通学環境の改善に取り組みます

学校まで遠い子どもたち、障がいがあって通学が困難な子どもたちには、スクールバスの導入や福祉車両等のライドシェアを活用し、防犯対策や熱中症対策も含め、安心して通学できる環境を整えます。

いじめや色々な悩みを抱える子どもたちを 「学校×地域」で支えます

子どもたちを地域全体で支えるため、学校と地域の連携体制を強化します。あわせて、ふるさと納税制度を使って、こども食堂やフードパントリーの取り組みや、自治会館等を活用した学校支援や交流の場「現代版寺子屋」の取り組みを支援し、家庭・学校以外の居場所や学びの機会を地域ぐるみでつくります。

みんなで「支えあう」越谷

各世代の人口バランスの良い越谷では、それぞれの生活リズムに合わせ、無理のない範囲で地域に関わることが可能です。それぞれが少しずつ協力しながら、どんな世代の人も、どんな背景の人も安心して支え合える仕組みをつくります。

多世代型包括支援センターを設置します

暮らしの悩みは1つの窓口で解決できないことも多いです。13地区にある地域包括支援センターを基盤に、世代や背景を問わず、1人暮らしの方も、誰でも気軽にどうぞ相談できる“地域まるごと支援相談窓口”を設置し、各方面の支援につなげます。また、24時間365日相談可能な、AI技術を活用した匿名チャット相談窓口「デジタルよろず相談窓口」を設置し、各方面の支援につなげます。

ケアをひとりで抱え込まない地域をつくります

ダブルケアやヤングケアラー、8050問題など、支援を必要とする潜在的ケアラーを地域で気づき、支援につなげられるように、学校や地域包括支援センター、民生委員、自治会などと連携し、仕組みを整えます。駅前や商業施設での啓発活動も積極的に行い、1人でも多くの方を支援につなげます。

地域防災の要・消防団をしっかりと支えます

水害や火災など地域特有のリスクに備える消防団の活動が、市民の命と暮らしを守る最前線となっています。こうした地域防災の要を支えるため、団員の確保に向けた広報活動の強化や、若い世代・女性が参加しやすい環境整備を進めます。また、報酬や装備、訓練環境の充実、災害時の安全確保にも力を入れ、13地区の特性を活かした消防団の体制強化を図ります。